

「アヴァンギャルド」とは何か

C.グリーンバーグの芸術理論と T.J.クラーク

はじめに

美術評論化であるクレメント・グリーンバーグ、彼の芸術理論に異議を申し立てた T.J.クラーク。この二人のモダニズム芸術理論の見解の差異が私たちに芸術のあり方を問うている。それは、「芸術は社会とどのような関係を持ち、また影響を受けるのか」、そして今回の発表のテーマである「芸術は何によって価値が決まるのか」ということである。二人の差異に立ち、二人のそれぞれの立場から見える見解を検証するとともに、私たちがなりの見解を出していきたいと思う。

森村・川村セミナー
グループ発表レジュメ
2006 / 10 / 11
鯨井留実、桑原 翔、佐藤奈央

1. クレメント・グリーンバーグと二つの論文

1-1 グリーンバーグと二つの論文

・クレメント・グリーンバーグ

= Clement Greenberg; 1909年1月16日 1994年5月7日

- ・アメリカの美術評論家
- ・ニューヨーク生まれ、親はリトアニア系のユダヤ人。

・グリーンバーグは1939年、1940年と連続して二つの論文「アヴァンギャルドとキッチュ」と「新たなるラオコーンに向けて」を発表。

1939年 「アヴァンギャルドとキッチュ (Avant-Garde and Kitsch)」

・『パーティサン・レビュー』1939年秋号誌に掲載

1940年 「新たなるラオコーンに向けて (Towards a Newer Laocoon)」

・『パーティサン・レビュー』1940年秋号誌に掲載

両論文は共に短く、19世紀半ばのアヴァンギャルド芸術の行程を歴史的に説明しているもの。

1-2 アヴァンギャルドの誕生とその歴史的背景 アヴァンギャルドとは何か？

「西洋ブルジョワ社会の一部が、それ以前には聞いたことのないものを生み出した。アヴァンギャルド文化である。この文化を可能にしたのは、すぐれた歴史意識(新種の社会批判/歴史批判の登場)である。アヴァンギャルドの誕生が、科学的な革命思想がヨーロッパで最初の大胆な展開を見せたのと、年代的、地理的に一致することは偶然ではない」
(C.グリーンバーグ「アヴァンギャルドとキッチュ」より)

19世紀半ば 西洋社会

[それ以前]

ブルジョワ社会の確立 ブルジョワ階級が絶対的な地位を占め、芸術を占有していた。

貴族主義 = 芸術はブルジョワ階級だけが支配する高貴で高い質を持つもの

- ・当時の芸術は、模倣的な「写実主義」。
- ・芸術は、宗教、権威、伝統、様式に密接に関わっていた。

[19世紀半ば]

1870年代～ イデオロギー闘争 = マルクス主義の登場

- ・宗教、権威、伝統、様式などにたいする懐疑(イデオロギー懐疑)
- ・それまでの既成概念の崩壊(何が真実か?)
- ・ブルジョワ文化の衰退

「その社会特有の諸形態の必然性を正当化しえなくなる」
= それまでの芸術のあり方を維持できなくなる。

「アカデミズム」

= 同一のテーマが数多くの異なった作品の中で機械的に生み出されるが、新しいものは何一つとして生み出されない。

アヴァンギャルドの出現

こうしたブルジョワ社会の衰退に適応する
あたらしい形の芸術が生み出される。

アヴァンギャルド(モダニズム芸術)

アカデミズムの超克、イデオロギー闘争からの離脱、ブルジョワ政治、革命家をも否定
アヴァンギャルドは社会のあらゆるものから隔離され、それ単体で独立する。(「純粋性」)
主題・内容から目をそらし、抽象芸術、非対象芸術にと向かう。

それによって、アヴァンギャルド芸術は自己の高い芸術価値を維持しようとした。

キッチュの出現

「キッチュ」

- ・雑誌カヴァー、挿絵、広告、通俗的・扇情的フィクション、漫画、通俗音楽、
タップダンス、ハリウッド映画など。 商業目的
- ・伝統芸術の形式のみを拝借し、プロレタリア階級(大衆)の為に「芸術を消化しやすく、
楽しみやすいものに」 擬似芸術・擬似文化(「アカデミズム」)

芸術が「大衆化」されていく = ブルジョワ階級の知識人(エリート層)の水準をおとす。

1-3 「黄金の臍の緒」で結ばれるブルジョワとアヴァンギャルド

- ・アヴァンギャルドは自己疎外をし、社会から隔離されているように思えるが、
そもそもアヴァンギャルドはブルジョワ社会が生み出したものであり、アヴァン
ギャルドは当時ブルジョワ階級のエリート階級によって支援(投資)されていた。
つまり、アヴァンギャルドはブルジョワ社会に依存している(「黄金の臍の緒」で繋がっている)

1-4 アヴァンギャルドとキッチュ

- ・キッチュ = 大衆化によってエリート階級の水準を下げてしまう。
 - ・アヴァンギャルド = その衰退をいとめようとする。
- 対立
- | | |
|---------|-----------------------|
| 伝統の活性化 | それまでの伝統芸術の本質を維持 |
| 何か新しいもの | それまでの形式を否定し新たなものを生み出す |

2 クレメント・グリーンバーグの芸術理論のベーシックアイデア

2-1 マルクス主義

当時の西洋ブルジョワ社会はマルクス主義文化が着目されていた時代だった。

グリーンバーグもT.J.クラークもマルクス主義者であり、彼らのアヴァンギャルドに対する論考には少なからずその影響が見られる。

「アヴァンギャルド文化の誕生を可能としたのは、すぐれた歴史意識 新種の社会批判 / 歴史批判の登場といった方が正確だろう。アヴァンギャルドの誕生が、科学的な革命思想 (= マルクス主義) がヨーロッパで最初の大膽な展開をみせたのと、年代的に、そして地理的にも一致することは、少しも偶然ではない。」by グリーンバーグ

社会主義

...生産と配分的手段・方法を、社会の成員全体で共有することによって社会を運営していく体制である。資本主義経済における階級的不平等の克服を目的とし、その手段として生産手段の社会化を実現することを主張している。

グリーンバーグのアヴァンギャルドに対する見方はエリオットのトロツキズムであり、ブレヒトの活動の影響も大きかった。

・エリオットのトロツキズム

エリオットの アヴァンギャルドは伝統の断絶ではなく、伝統を活性化し、維持していくという考え方。

トロツキズム プロレタリアートこそが革新を担うべき。

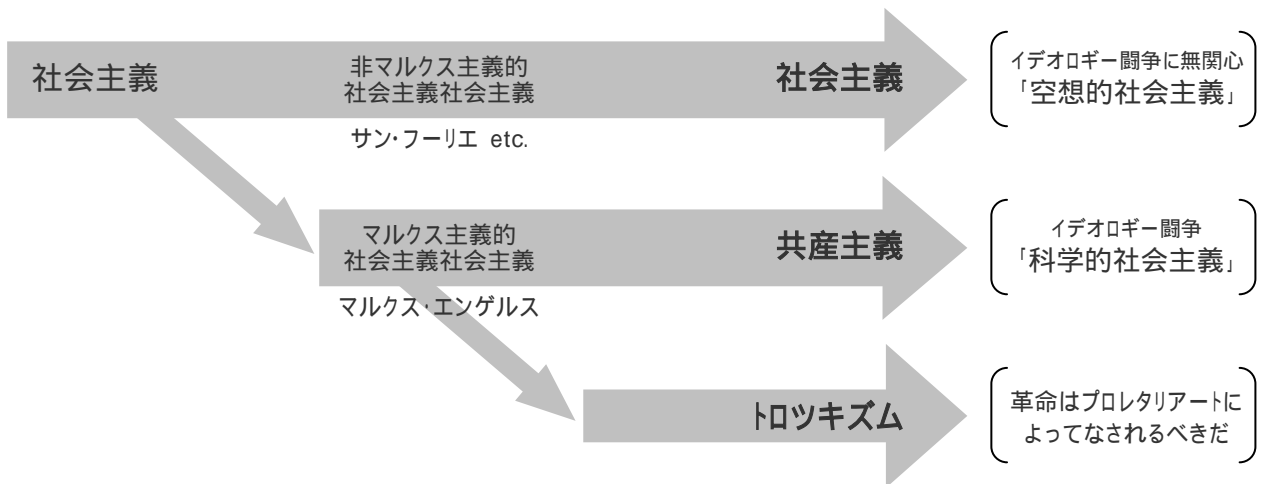
・ベルトルト・ブレヒト(1898 ~ 1956)

ドイツの劇作家・詩人・演出家。マルクス主義者で、トロツキズムを支持。

ニヒリスト...伝統的な既成の秩序や価値を否定し、生存は無意味とする態度。これには無意味な生存に安住する逃避的な傾向と、既成の文化や制度を反抗的な傾向とがある。

ブレヒトはブルジョワ芸術であった演劇における必要の無いものを排除していった
追求していった

演劇の純粹化を行った人物。



2-2 アヴァンギャルドにおける「純粋性」

グリーンバーグによれば、アヴァンギャルドの意義は芸術を過去の高い質のままに維持することである。その高い質の維持のために、アヴァンギャルドは芸術以外のあらゆるものから自身を隔離していく(他の媒体からも隔離される)

今までは他の支配的芸術を模倣していたが、独自の「媒体」を主張させる動きへ各芸術の独自の「媒体」に注目して、1個の絶対の表現を追究していく
 自己を「自立」させていく
 絵画の「媒体」は「平面」、二次元性である
 絵画で言う純粋性とは、平面性の追究

グリーンバーグにとって、芸術作品にとって重要なのは質であり、質は内容である。「質」とはフォルムと色彩、表現の形式である。

3.T.J.クラークの批判

グリーンバーグとクラークの主張

グリーンバーグ	クラーク
マルクス主義 歴史的 トロツキズム的 純粋性の実践	マルクス主義 否定の実践

否定の実践

・歴史的な芸術手法などの維持も否定

クラークの主張

モダニズムの本質 = 否定の実践、否定の事実 = 価値を有するもの

その媒体の持つ本質そのものも否定されうる

例:ダダイズム:デュシャン「レディメイド」

グリーンバーグ:モダニズムの本質 = 純粋性の実践 = 高い質の維持 = 価値 を主張

媒体の持つ本質はそのまま継続、維持

4. 考察

今回、この文献を読み進めるにあたり、一貫した疑問として考え続けていたことは、他にもない、「芸術は何によって価値が決まるのか？」ということだ。クレメント・グリーンバーグは芸術の価値は、「純粋性の実践から高い質を維持すること」によって芸術の価値は決まり、対してT.J.クラークは「媒体のもつ本質をも否定し、否定の実践を続けていくこと」で価値は決まると述べている。「媒体」そのものの純粋性と質を維持するか、しないかという一点に二人の根本的な差異は見えるように思う。

ここで話されるアヴァンギャルド(モダニズム)は衰退してきたブルジョワ階級の芸術をどうにか世の中に残すことを目的に生まれたという歴史的背景がある中では、グリーンバーグの言う純粋性の実践にこそ価値があるように思える。が、クラークがモダニズムと認める「キッチュ」や「ダダイズム」といった大衆芸術もまた社会背景を受けて生まれたものであり、否定の実践による媒体にとらわれない芸術が確立したことにより、現代に続く芸術があるのも事実である。

と、すれば、私たちはどちらの見解が正しかったのかという私たちなりの見解を提示することはできない。なぜならば今回の検証で、二者の見解は共に理解でき、また芸術は常にその時代の文化、国家、社会背景の下に価値が見出され、芸術は国家背景などを無視して、単体で価値を有するとは言えないからである。

では、今現代の芸術はどのような価値によって左右され、今後はどのような価値の下、左右されるのだろうか？今現在それが、「アート」として固有の価値を見出されているところの所以はなんだろうか？芸術の価値について思いを巡らせることは今後有意義なものだろう。

参考

- ・ モダニズムの政治学
- ・ 芸術は永遠か - マルクス主義文学論芸術論 - 山崎八郎 労働大学 1984年10月

